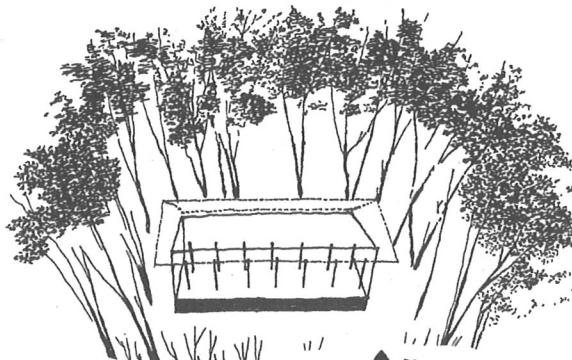


「第二回目  
いま、木の家を  
どうつくるか」

住宅会社の営業マンから『これが最新の住宅』です等と言わると「そうかア」と簡単に信じてしまいがちです。『住宅の性能表示』といわれるようになり、だいぶ時間が経ちました。しかし性能だけが住宅の良し悪しを決定する絶対基準ではないと思います。使い勝手(これは利便性だけを追求したものではなく:という意味の使い勝手で

衣、食、住といわれます。このうち衣と食は、普段のものであり、各々身近といふか、ごくごく生活の中当たり前なものです。住も毎日そこに住んでいるものですから、普段のものといえばいえるのですが、これが家を建てるとなると、普段のものではなくなります。人の一生のなかで、家を建てる事は、およそ少ない経験なのです。

スがよくてもつくれません。暮らしに想いを馳せなければ住む人にフィットするものにはなりません。)お金をかけても、美的センスがよくてもつくれません。暮らしに想いを馳せなければ住む人にフィットするものにはなりません。)



# 住まい手帖

大橋建築設計工房

大橋秀三

くさんあります。しかしそこに載っているものは、各自の事情があり、各々の暮らしがあって出来ている家です。スタイルから入っていきことは楽しい勉強ですが、強では、その人にフィットした『いい家』は手に入らないのです。  
昭和四十年代頃までは、ま

家を建てるとなると、人はとにかく勉強をします。しかし何か難しかったのか、なかなか難しいのです。ことに木の家となり込んだグラビア雑誌が盛り込んでいました。専門家や事例を盛り込んだ

だ町中で大工さんがカンナを掛けたり、左官さんがしつくいをこねているのを見かけたものですが、経済成長と共に新建材が登場し、つくり手も住み手もモロ手をあげて歓迎しました。この工業製品による近代化が、家づくり全体に及ぶのには時間がかかりませんでした。

(次号に続く)

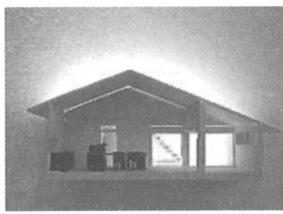
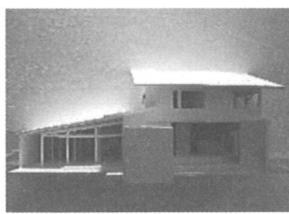
## 模型で考える住まいづくり展



上越の建築家

大橋秀三

家をつくる時、まず平面を考えます。平面からスタートして、次に空間を考えます。その時に模型がなくてはなりません。落ち着いた空間、ダイナミズムにあふれる空間、コンパクトな空間、これらの空間は模型からしか生まれてこないものです。



◆日時: 4/28 (土)~30 (月・祝) 10:00~17:00 ◆会場: (株)久保田建築 住みつぼ広場 大潟区潟町169  
◆連絡先: フリーダイヤル 0120-34-2720 ◆ホームページ インターネット [大橋建築設計工房](#) [久保田建築](#) ⇒ 検索!

行事に合わせ、季節に合わせてホームページを更新しています。見てね!